

良き首長の条件①「リーダーシップ力 ～機関車力と巻き込み力～」

4月の統一地方選に向けて地方自治体のトップである、首長の資質について改めて考える必要が生じている。住民のニーズを如何に捉え政策に反映させていくか、首長と地方議会の関係を如何に形成して行くべきかなど、民主主義の基本に係わる課題が改めて問われることになる。このことは、「与えられる民主主義」から「創り出す民主主義」に日本社会が脱却し、21世紀に適した政治自治を確立できるかに係わる問題でもある。本ニュースでは、統一地方選に向けて3回に分けて首長に求められる条件について整理することにしたい。総理の資質も議論される中で、第1回は「リーダーシップ力」について考える。

首長のリーダーシップとは一般的に、地域のトップとして住民のために地方自治体組織全員の努力の方向、ペース、そして結果を決定する資質を意味する。この資質においてよくイメージされるのが機関車型リーダーシップである。「俺について来い」型であり、国政、地方政治、官民を問わず日本ではこの機関車型がリーダーシップの資質の典型として受け止められてきている。地方自治体の首長の場合、地域で発生する課題をひたすら機関車的に解決する救世主としてのリーダーシップを首長に求め続ける考え方である。こうしたリーダーシップは政治家の資質として不可欠ではあるものの、第1にリーダーに対して過度の重荷を背負わせること、第2はリーダーシップを強調することで職員や住民の受け身の姿勢を助長すること、第3は首長と職員、住民間の相互作用によるプラス効果を過小評価しリーダーシップを上位下達的に捉えやすいこと等の留意点を持つ。機関車型、救世主型リーダーシップは政治家にとって不可欠な要素であるものの、それだけでは十分ではない。それは、特定の人材の特定の資質による一時的なリーダーシップに依存することで地域の持続的発展を限定的にする危険性があるからである。当該資質を持つリーダーが去れば、地域の活力は急速に失われて行く。

そこで、首長として救世主的リーダーシップと共に必要となるのは、巻き込み型のリーダーシップである。特に、構造変化が恒常化するリスク社会、情報化時代に入った21世紀では、外部環境の変化が激しく機関車型、救世主型リーダーシップの決定的且つ恒常的な有効性は低下せざるを得ない。なぜならば、すぐに環境が変化すると同時に追従者が誕生するからである。救世主的な個人の資質にだけ依存していれば、どんなに先進的取り組みでも時間の経過と共に劣化せざるを得ない。こうした変化の時代に求められるもうひとつのリーダーシップ力とは、地域を構成する住民との相互作用を視界に入れ政策の持続的再現力の形成を実現する巻き込み型の資質である。持続的再現力とは、地域を構成する住民、あるいは地方自治体の行政組織をはじめとした人的資源や環境が変化しても常に一定の応用力を地域や組織自体が発揮し、救世主的リーダーシップが仮にいなくても地域としてある程度変化に対応できる質を持つことである。それにより、特定の資質や偶発的結果に依存するのではなく、一定の変動であれば恒常的に対応できる資質を常に地域や地方自治体を持つことになる。地域が進むべき方向と目的は首長と住民との間の相互作用を通じて形成される。この場合の良き首長としてのリーダー力の条件は、地域の構成員と共にあり、内部から触媒としてリードする者として集団の中に埋もれない自己意識を持ち、ネットワークが醸し出す固有の存在を形成する資質を持つことである。良きリーダーは、自らを単独の行為者とせず創造の相互作用のプロセスの一部と考える。

重要な事は、救世主的リーダーシップと巻き込み型リーダーシップは両輪たることである。例えば、単に住民の意見やニーズに従うだけでは良きリーダーシップとは言えない。それは、救世主型、巻き込み型両方のリーダーシップ力を持ちえない状況を意味する。住民の意見を求めるにせよ自らの考え方を具体的に提示し、それを土台に住民に従属するのではなく住民と共に政策議論の中で自らの考え方の進化に努力する資質が必要となる。